

『高齢者による使いやすさ検証実践センタ』



高齢者による使いやすさ 検証実践センターの開発

Founding Center for Usability and Aging Research (CUAR)

[概要] 地域社会の中で暮らす高齢者の生活の質を維持・向上していくための重要な一要素が、各種機器・システムの「使いやすさ」の保証である。本プロジェクトでは、地域在住高齢者が社会貢献として「何がどのように使にくいのか」という情報を集積するCUAR(みんなラボ)を設立し、その活動を通して、新しいタイプのコミュニティ作りを模索し、また社会全体としての「モノの使いやすさ」を実現していくことを目的とする。

研究代表 **原田悦子**(筑波大学人間系)

1

なぜ 高齢者のための「使いやすさ」か

健康で独立した生計を営む
高齢者についても、便利かつ豊かな
生活を保証し、支援していきたい

ICT機器は
使わない/使えない
高齢者の存在
なぜ?

背景

- ・高齢者支援の低コストでの実現とそのためのICT利用化
 - 高齢者/世帯数の急激増加
 - 支援の社会資源 枯渇
- ・社会全体、日常生活の情報化
⇒使わない人は相対的に「不便化」

CUAR/みんならぼで、
「高齢者にとっての使いやすさ」
解明と実現支援

高齢者にとって使いやすいモノづくり
/システムづくりができる社会へ!



はらだ えつこ
筑波大学人間系心理学域 教授 **原田 悦子**

高齢者による使いやすさ検証実践センターCUAR 略称「みんなラボ」

CUAR =
みんなラボ

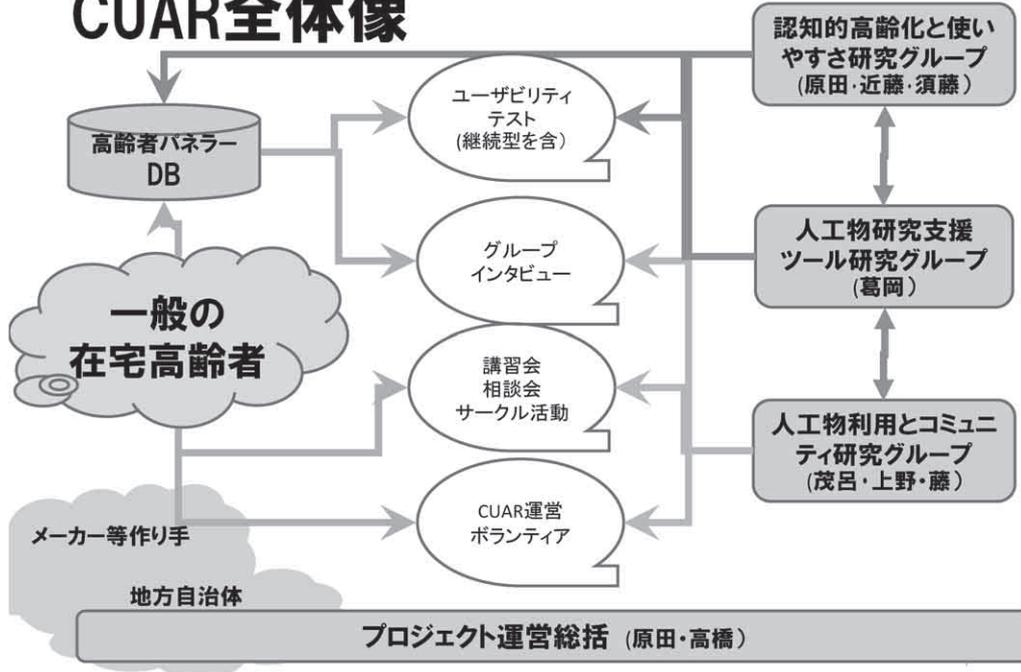
- ◆ いつでも参加活動できる地域での活動拠点
← 地域高齢者にとって
- ◆ いつでも施設&潜在的パネラーを利用可能な資源
← メーカーorサービス提供者にとって
- ◆ 高齢者の認知と使いやすさの研究拠点
← 研究者にとって

地域在住の高齢者に、ボランティア活動として、「モノの使いやすさを検証する」活動への参加を要請する

CUARへの参加による社会貢献を！

1. 参加表明 → データベースへの登録
 - ・認知特性, 個人特性
 - ・活動の記録
2. 対象機器のユーザビリティテストへの参加
3. 各種の使いやすさに関するグループ討議への参加
4. みんなラボ運営, 講習会, その他のサークル活動などへの参加

CUAR全体像



なぜ みんなの使いやすさラボなのか (1)

高齢者にとっての使いにくさは
みんなにとっての使いにくさ
ユニバーサルデザインの原理

高齢者による
社会貢献

高齢者テスターの方が容易に
モノのデザインの問題点を
検出できる

デザインの悪さを
若年成人は「自力で乗り越えられる」
なぜ高齢者は乗り越えられないのだろう？
なぜ？

認知的加齢と
モノの使いやすさとの
関係についての研究

なぜ みんなの使いやすさラボなのか (2)

「使うことを学ぶ」のは
「孫同居」で促進される！！
なぜ？
『コミュニティ』の効果？

高齢者にとって
の参加の意義？

社会貢献のための
自発的参加集団で、
コミュニティを作ることは
可能か？

居住高齢者の独居・
夫婦のみ世帯の増加
どうやって支援する？

みんなラボの中で
どのようなコミュニティが発生し、
どのような効果をもたらされるか

筑波大学大学院博士課程心理学研究科修了(心理学専攻・教育学博士)。日本アイビーエム(株)東京基礎研究所(認知工学グループ)での3年間の研究員生活の後、法政大学社会学部を経て、現在筑波大学大学院人間総合科学研究科(人間系心理学域)教授。

人間の頭の中の働きを機能面からとらえる認知心理学・認知科学をベースとするが、仮説実証的な実験室研究と、現実の機器システムを対象とし「人にとっての使いやすさ」を実証的に明らかにしていくフィールド研究(認知工学)とを車の両輪として進めていくことが、真に役に立ち、かつ意味のある心理学研究への道」と信じて研究を進めている。

